

令和七年度

湖南省の小さな詩人たち

子どもたちが創った

詩・俳句・川柳・短歌

入賞作品集



主催

湖南省教育委員会

協賛

水口ライオンズクラブ

もくじ

○ 自由詩部門

・ 小学校一年生～三年生の部	1
・ 小学校四年生～六年生の部	4
・ 中学校の部	7

○ 定型詩部門

・ 小学校一年生～三年生の部	11
・ 小学校四年生～六年生の部	14
・ 中学校の部	16

【表紙絵】

石部小学校	六年	藤谷 蘭	詩「秋の喜び」より
菩提寺北小学校	三年	小野 桜夏	詩「もしもながれ星だったら」より

【自由詩部門】

(野呂 昶 選)

【最優秀賞】 小学校一年生～三年生の部

明日のゆうひ

石部小学校

三年

北

朱莉

ゆうひが
キラキラかがやいて
あしたにつながっているんだな
あしたがゆうひをせおっている



【評】

夕日が西の空を、まっ赤にそめておちていきます。そのようすを「ゆうひはあしたにつながっているんだな、あしたがゆうひをせおっている」とひょうげんしました。「あしたがゆうひをせおう」なんてすぐれた表現でしょう。大自然の美しさ、雄大さ、そしてわたしたちが願う明日への期待がみごとに短い文中にえがかれていて、心うたれました。

【優秀賞】小学校一年生～三年生の部

あきの歌

石部南小学校 二年 桐山 きのやま 四季 しき

もみじといっしょにうたいたい
ヒラヒラヒラヒラきこえるよ
どんぐりもいっしょにうたおうよ
ポロポロポロポロうたってる
スズムシもいっしょにうたおうよ
リンリンリンとうたってる
まつぼっくりもうたおうよ
ココロココロココロうたってる
みんないっしょにうたいたい
みんなのあきのおんがく会

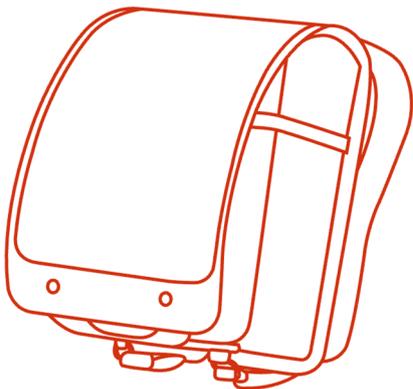


【優秀賞】小学校一年生～三年生の部

ぼくはランドセル

岩根小学校 一年 塚田 つかだ 一生 いっせい

ぼくのなかには
もちものがいっぱい
おもたいな
でも
せなかくつついて
きみと
がっこうにいくのは
たのしいよ



【佳作】小学校一年生～三年生の部

お母さんになったら

菩提寺北小学校

三年

山本 やまもと

葵乃 あいの

いつも

子どもの おせわ

たいへん たいへん

ごはんを

たべさせたり

せんたくを

したり

たいへん たいへん

でも子どもはかわいくて

たのしいのかな

なってみたいな

お母さん

時間

下田小学校 二年

並河 なみかわ

波音 なみね

きっと時間がむげんにあったら

なにもしないだろうな

だって、もくひょうがあるから

がんばれるんだもの

きっと時間がむげんにあったら

なにもしないだろうな

だって、とてもたいせつなものが

わからない気がするんだもの

時間がむげんにあったら

なにもしないだろうな

だって、なにもがんばらなくて

いいんだもの

【最優秀賞】 小学校四年生～六年生の部

自分スケッチブック

菩提寺小学校 五年 大野 結菜

自由自在のスケッチブック
けずりたてのえんぴつをにぎると
私の今日が始まる

きんちようしておそろおそろ書いた線
後かいのあとを消しごむでこする
あとは必ず残るけれど
それもまた味になる
時には何も書けない空白のページ
えんぴつを走らせるたび
私は私になっていく
明日も私は私をえがく



【評】

スケッチブックは、目には見えない心
の中のようにすを描いているのですね。心
の緊張や後悔やよろこび、それらがしつ
かりと描かれている。後悔のあとを消しゴ
ムで消すと、そのきずもまた味になる。「け
ずりたてのえんぴつをにぎると私の今日
が始まる」すばらしい発見です。スケッチ
ブックの中に見える私という存在、「明日
も私は私をえがく」スケッチブックは、
私のすべてを描いているのですね。私と
は何かを見つめるすぐれた作品です。

【優秀賞】小学校四年生～六年生の部

みんなの笑顔

菩提寺小学校

五年

池田 いけだ

雪愛 ゆきあ

だれかが笑う
つられて笑う
楽しくて笑う
面白くて笑う
みんなで笑う
笑うだけで幸せ
笑うだけで楽しい
生きているから笑う
遊んでいるから笑う
だれかが笑うと心が開く
みんなの笑顔



【優秀賞】小学校四年生～六年生の部

手と手

三雲小学校

五年

藤岡 ふじおか

麗菜 れいな

手と手を合わせて
手と手をつないで
手と手をはなして
もう一度合わせて
もう一度つないで
一生つなぐ手と手を
合わせる
これが本当の
手と手のきずな



心のかぎ

菩提寺小学校

五年

高橋 たかはし

麻由里 まゆり

ある日 心のかぎが開いた

そのしゅんかん わたしの何かが目覚めた

ゆうきが出て 友だちができた

楽しい時間をすごせた

生まれたことに初めてかんしゃができた

これからも楽しい時間がふえたらいいと思えた

お母さん お父さん ありがとう

夕暮れ

石部小学校

六年

西原 にしはら

快晟 かいせい

楽しい時の夕暮れは

楽しかった思い出がよみがえる

辛い時の夕暮れは

辛い僕をなぐさめてくれて

嬉しい時の夕暮れは

今までの努力がよみがえる

悔しい時の夕暮れは

次からがんばろうと教えてくれて

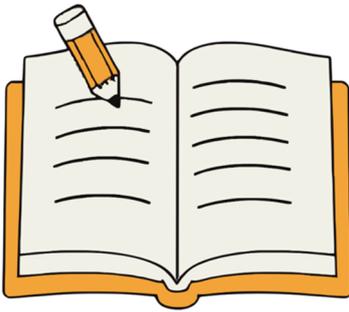
そんな夕暮れにいつも感謝

【最優秀賞】 中学校の部

証

甲西中学校 一年 小野 真椰

ノートは心に似ていると思う
開いたときは
何か始めたときは
頑張ろうと思うのに
難しくても
いつの間にか やる気を失っている
でも
最後まで書いたら
最後までやり切ったら
その努力は
少し 未来の自分の助けになる
少し 成長した



【評】

国語のノートも、社会や数学のノートもそれはすべて自己表現なのでですね。自分とは何か、自分はどうか生きようとしているのか、それは直接的ではないけれど、毎日書くノートにしっかりと描かれている。ノートをしっかりと努力して書きあげた時、それは「少し自分が成長した証」その通りです。よく自分を見つめています。

青空

日枝中学校 一年

福田 ふくだ

蒼空 そら

よく晴れた空だなあ
どこにも雲ひとつない

高く 高く

広く 広く

限りなく ああ大きな青空

そうだこういう世界があったのだ

ひとつもくもりもない

明るい 高い

美しい 広々とした

限りなく 大きな世界が

よく晴れた空だなあ

どこにも雲ひとつない

自分が小さくなる

そして大きくなる

限りなく ああ大きな青空

描く

甲西北中学校 一年

三村 みむら

りこ

わたしはみたい。見えないばしよをみてみたい。

わたしはかきたい。「わからない」をかいてみたい。

わたしはかきたい。「かけない」をかいてみたい。

わたしはかく。一瞬のひらめきを落とさないように。

ペンをはしっておどりだす。なにかちがうと足をとめ、

ひらめきを かいていく

自分料理

甲西北中学校

一年

中村 なかむら

咲希 さき

自分を料理してみる。大きななべに、好きなこと一つ。

そして、楽しかった思い出二つ。どんどん どんどん つめてゆく。

苦い苦い思い出も入れてゆくー。

そして最後に、自分味の調味料を入れたら

自分の完成。

でもまだ完成ではないのかもしれない。

なぜなら、

まだこれからもっと、自分料理をしていくのだから……。



夜空

石部中学校 一年

山^や田^{まだ}

凜^り空^く

空が黒にのまれる時

月が大きなあかりとなる

そこに星が味方して

みんなの夜を照らしてる

明日朝日がのぼるまで

みんなで仲よくてらしてる

たまにホタルも味方して

夜をみんなでてらしてる

みんな朝をまっている



【定型詩部門】

(平賀 胤壽 選)

【最優秀賞】小学校一年生～三年生の部

菩提寺小学校

二年

坂田

直央

石部小学校

二年

松岡

千隼

【優秀賞】小学校一年生～三年生の部

おべんとう

まわりを見れば

もみじのは

やきいもの

きいろいところ

まんげつだ

【評】

お弁当べんとうを開ひらくのに心地こころよい場所ばしょを見
つけ、ふと気きづけば鮮あじやかな紅葉もみぢの葉はに
囲かこまれています。お弁当べんとうの味あじも格別かくべつ、さ
ぞかし楽たのしいひと時ときだったことでしょ
う。まわりを見れば…に、この上うない幸しあわ
せ感かんがうかがえます。

下田小学校

三年

松原

愛

ゆきだるま ころころころろ
いっしょにね おおきくなるの
たのしいね

【佳作】 小学校一年生～三年生の部

きりぎりす ちいさいあしで はさむんだ

三雲小学校

三年

中村なかむら 優斗ゆうと

虫の声 こころうがかす 夏の音

とてもゆかいだ とてもきれいだ

岩根小学校

三年

奥村おくむら 陸玖りく

くりひろい ちくちくいがに ばんそうこう

石部南小学校

一年

盛野もりの 加奈葉かなは

太陽がおはようと言う 言いかえす

菩提寺北小学校

三年

小野おの 桜夏さな

かたつむり 葉っぱの上で のりをはる

石部南小学校

三年

グエン クアン ミン

秋のとき 頭におちばが のったんだ

秋の思い出 一つふえたよ

下田小学校

三年

村田むらた 陽奏ほのか

ふうせんが とんでいくように 花火さく

三雲小学校

三年

加藤かとう 愛結みゆ

いわしぐも そらをすいすい およいでる

石部小学校

二年

中島 なかじま

優里 ゆうり

【定型詩部門】

(平賀 胤壽 選)

【最優秀賞】小学校四年生～六年生の部

下田小学校

六年

藤井

めい

運動会

過ぎた風にも

声残る

【優秀賞】小学校四年生～六年生の部

三雲小学校

五年

大川内

隼太

どんぐりは

たどるたどると

リスのいえ

【評】

歓声のやまぬ運動会が終わり、より爽やかな風が校庭を吹き抜けます。その風には、競技の余韻がなお漂っているようです。声残る…に、精一杯やり切った感じがええます。

お月様

虫のねいろも

聞いてみて

菩提寺北小学校 四年

福永 晃大

【佳作】 小学校四年生～六年生の部

どんぐりは	じぶんのぼうし	さがしてる	石部小学校	四年	上田	あきと
おどる風	ゆれるハチマキ	いわし雲	菩提寺小学校	六年	北島	りこ
タヤけと	いっしょに光る	アカトンボ	三雲東小学校	四年	日當	まお
日がしずむ	すすきの色が	オレンジに	水戸小学校	五年	樋口	いちや
窓の外	深く吸いこむ	木犀か	菩提寺小学校	六年	横山	さくら
青い空	おうえんの声は	はしりきる	石部南小学校	四年	森地	かい
夢の場所	サヨナラヒット	かなえたい	岩根小学校	五年	谷川	そつすけ
夏の夜	夜空にどかん	花が咲く	下田小学校	五年	成美	ゆあ

【定型詩部門】

(平賀 胤壽 選)

【最優秀賞】 中学校の部

日枝中学校

二年

杉浦 すぎうら

彪仁 あやと

ひまわりが ただまっすぐに 空を見て

その姿に少し 心がゆれた

【優秀賞】 中学校の部

石部中学校

二年

太田 おおた
葵 あおい

部活での 合奏止められ ドキドキと

思わぬことに 私を褒めた

甲西中学校

二年

山中 やまなか
りのあ

透き通り パチパチ光る 炭酸が

いつかは変わる 空を模してる

【評】

炎天下のひまわりが、ただただまっすぐに空を仰ぐように立っています。ときにはそよ風にゆれつつ、その明るくけなげにも見える姿にエールを送りたくなります。心がゆれた…に、中学生らしい仄かな感情がうかがえます。

【佳作】中学校の部

夏の空 できない問題 見つめてる

くやしきだつて 明日をつくる

甲西北中学校

二年

寺山

礼菜

追い風や 坂道下る 帰り道

数時間前 汗かいた道

日枝中学校

二年

吉岡

大志

ブザー鳴る 最後の試合 一点差

天をあおいで くちびるをかむ

石部中学校

一年

山岸

陽莉

学校で 億の知識を 得てゆくなり

自分の将来 みらい 広がってゆく

日枝中学校

二年

山下

陸斗

運命を 信じぬ君と 待つ蛍

甲西中学校

三年

神山

瑠香

雪だるまは 心こめると 意思がある

甲西北中学校

三年

近藤

圭真

落ち葉吹く 澄んだ青空 目に入る

石部中学校

三年

川合

藤司

ベランダで 夜空を見上げ 息一つ

甲西北中学校

三年

鈴木

環奈

夏かおる 電車と青空 ゆれている

水田をかける 心地よい風

甲西中学校

二年

奥村^{おくむら}

芽伊^{めい}

湖南市の小さな詩人たち 令和七年度 入賞作品集

子どもたちが創った詩・俳句・川柳・短歌

発行日 令和八年一月三〇日
編集発行 湖南市教育委員会